

進路指導部便り

令和8年10月23日
第5号
東京都立七生特別支援学校長
黒澤 一慶

日足もすっかり短くなり、秋風の冷たさを肌で感じる季節となりました。朝晩の冷え込みも厳しくなりますので、体調管理にどうぞお気を付けください。さて、今回の進路指導部便りでは、「高等部3年生の現場実習の報告」と「企業の進路選択に関する実例」について掲載しております。また、11月に進路指導個別相談日を設けておりますので、お気軽にお申込みください。

高等部3年生 現場実習の報告

高等部3年生のⅡ期現場実習が9月上旬から始まりました。3年生での実習は1年間を通じて、卒業後の進路を『決定する』大切な実習となります。その中で、Ⅰ期（1学期）の実習とⅡ期（2学期）の実習の違いについて説明していきます。

＜Ⅰ期で前向きな評価をもらった場合＞

Ⅱ期の実習では、より一層事業所の活動や環境・人に慣れていけることを目標とします。実習先の方も、卒業後を見据えた関わり方を考えて、実習の様子をみます。

＜Ⅰ期で課題があり、Ⅱ期でその変化を確認する場合＞

Ⅰ期の実習後から、学校と家庭・寮で課題改善に向けて取り組みます。Ⅱ期の実習では、課題の改善・本人の変化がどのように見られるか確認することになります。

Ⅱ期の実習後には、卒業後の進路先が決まっていきます。福祉就労と企業就労で決まり方が大きく異なります。

福祉就労を目指す場合は、実習を通して、仕事内容や生活環境が本人に合っているのか、現在の利用者と関係は築けるかなど、様々な面を事業所と本人・保護者が互いに確認し、通所先を決定していきます。

企業就労を目指す場合は、実習で内定が出るわけではありません。「高等学校等新規卒業者の採用選考」のルールに則って進みます。学校に求人票が届いたら、生徒、保護者は内容を確認し、この求人に応募するか否かを決めていきます。その後、採用選考を経て、合否が決まっていきます。

3年生は、卒業後の円滑な地域移行に向けて、2学期後半から本人・家庭・寮と連携し、個別移行支援計画を作成します。3学期には、作成した個別移行支援計画を基に、本人に関係する機関、支援者（卒業後のサポーター）が、一堂に介して『個別移行支援会議』を実施します。進路指導部では、引き続き、生徒の希望する進路実現と、卒業後の安定した生活を送れるようにサポートしたいと思います。

進路個別相談のお知らせ

進路指導主任及び進路専任による、進路個別相談についてお知らせします。お子様の進路に関する悩みごとや相談ごとについて、保護者、七生福祉園職員の方が相談できる機会です。どうぞお気軽にお申し込みください。

11月の相談日は13日（金）です。時間は1回につき40分程度です。相談を希望される方は、下記QRコードよりお申込みください。締め切りは11月2日（月）です。

申し込みは
こちらから



<https://forms.office.com/r/M3n8tpnhNN>

進路選択・決定の実例（企業編）～様々な体験を積み重ねて～

高等部の進路選択では、「自分に合った進路先を見つけること」が大切です。そのためには、一つの経験だけで判断するのではなく、様々な体験や実習を積み重ねながら、自分の得意なことや苦手なこと、働きたい環境について考えていくことが必要です。高等部3年生の実習のテーマは「決める」であり、これまでの経験を生かして卒業後の進路先を決定していきます。

Aさんの事例

Aさんは、高等部1年生から職場見学やインターンシップに積極的に取り組んできました。

1年生では、学校で様々な作業に挑戦し、インターンシップを経験する中で、「体を動かす仕事が好き」、「決められた手順で作業することが得意」ということに気付きました。一方で、困ったときに自分から相談することが課題でした。

2年生では、小売りと清掃の職種で実習を経験しました。実習後の振り返りを重ねる中で、「清掃の仕事にやりがいを感じる」、「作業では、集中力を発揮して取り組める」という自分の強みが明確になっていきました。

3年生では、本人の希望に基づいた企業での実習を取り組みました。企業からは、「真面目に取り組める」、「時間やルールを守れる」という評価をいただきました。一方で、「分からないことを自分から聞く力」が今後の課題として挙げられました。

実習での課題に対して、学校と家庭が連携し、報告・連絡・相談の機会を作り継続して取り組みました。その後の実習では、自分から確認することや相談をする姿が見られ、実習先の担当者から、安心して仕事を任せられるという評価を受けることができました。

その結果、卒業後は、本人が希望した清掃業務の企業に就職することができました。

進路決定のポイント

Aさんが進路を決定できた背景には、次のようなポイントがありました。

- ・ 実習等で複数の職種や職場を体験した経験を生かしたことです
- ・ 実習後は評価を振り返り、今後の取り組みについて話し合いができたこと
- ・ 自分自身の得意なことや苦手なことの理解を深めたこと
- ・ 学校・家庭が連携して指導・支援を重ね、進路先にも状況を伝えて支援していただけたこと
- ・ 本人の希望や思いを大切にしながら進路を考えたこと

進路選択は、一回の実習や面談だけで決まるものではありません。日々の学習と実習の振り返りの積み重ねが将来の進路選択・進路決定につながります。これからも、生徒一人一人が自分に合った進路を見つけられるよう、家庭や関係機関と連携して支援していきます。